

# 普通科

学力向上70ティア校  
「みらいヘトライ! 福高スクラム」

学力向上フロンティア校に3年連続で指定  
普通科の新しい取組に御注目ください!

## 2年生小論文講演会 ～様々な視点で物事を見つめられる人に～

7月8日(木)に、東京から(株)桐原書店小論文課編集主幹の中村真弓氏をお迎えし、2年生を対象に「小論文講演会」～小論文の書き方から入試対策まで～という演題で御講演をいただきました。中村先生は、東京大学法学研究室で勤務された後、桐原書店小論文課の責任者として、現在年間120校以上の高等学校を訪れ、小論文指導を行っておられます。午後の蒸し暑い中でしたが、小論文と作文の違いは何か、小論文を書く上でのルール、良い小論文とはどのようなものか、最近の国公立大学における出題傾向などについて、質問を交えながら幅広く、具体例を挙げて、分かりやすく説明していただき、生徒は時間を忘れて熱心に聞き入りました。



小論文は、自分の感想や感じたこと(自分の視点)だけではなく、様々な立場で物事を見つめる力、その課題に対する知識や背景を客観的に分析する力が求められます。新聞やニュースなどを通して日常的に社会に目を向けること、入試に関わらず、すべての教科の学習を大切に、幅広い知識を身に付けることが、小論文を書くために重要である、と締めくくられました。

この講演会で学んだことや、夏休み期間中の情報収集をもとに、2年生は夏休み明けに小論文模試に挑戦します。

## 1年普通科宿泊学習 ～「本物」を体感する喜びを通して、具体的な進路目標を!～

7月23日(金)から24日(土)に、普通科1年生の希望者を対象に、宿泊学習を実施します。今年度は、2日間をかけて神戸大学と同志社大学、京都大学の3大学を訪問します(昨年度は大阪大学、立命館大学)。京都大学と神戸大学では、昨年度本校を卒業した1回生の先輩方が、忙しい時期にもかかわらず、本校後輩のために高校生活や受験についてのアドバイス、大学生活の様子等について語ってくれることになっています。京都大学総合博物館の見学なども予定しており、この研修を通して知的好奇心を高め、大学進学への目標をより具体化してくれることを期待しています。



京都地方裁判所の見学(昨年度)

## 取組紹介～「みらい」の窓～ 小論文講演会・感想文



今日の講演を聴いて、小論文を書く上で大切なのは”あらゆる視点から見ること”と、”知識を蓄えておくこと”なのだということがわかりました。また、講演を聴きながら、自分はちゃんと課題文や設問文の趣旨を押さえられているだろうか…。と自身を振り返り、自分は筆者の言いたいことや出題者の意図を的確に読み取れていないことにも気づくことができました。

これまでいくら新聞を読めだとか、世間のこと、政治のこと、世界のことを知れだとか言われても、なぜそれらが必要なのか分からず、知識を得ることにさほど意味を感じなかったのですが、今日、知識をもった小論文と知識をもたない作文を比較してみて、知識がないことは論文がかけないこと、それは人生に必要な「他者の視点でものごとを見る力」が身につかないことにつながるということが

分かり、自分もあらゆることを知らなくては…という危機感さえ持つようになりました。”わたし視点”しか持たない幼稚な大人にならないためにも、今できる努力を地道にやっていきたいと思えます。すばらしい講演をありがとうございました。

中村真弓先生、本日は、ためになる素晴らしい講演をありがとうございました。小論文は自分自身苦手だと感じていますが、今後避けては通れないものなのでしっかり学びたいと考えていました。

今回の講演では、小論文の基本的なこと、例えばどういうふうに読むべきかなどは自分にとって分かりやすかったです。そして、小論文においては自分目線の文を書くのではなく、様々な目線で考えることが大切ということ強く感じました。やはり感想文になるようではいけないと思うので、小論文が書けるように努力したいと思います。そのためにも、先生が言われたように、2年である今の時期からの頑張りを大切にして、「知識」を身につけていきたいと思えます。小論文で最終的に差が出るのは知識の差であり、その知識をうまく活用していけるかどうかさらに重要である、という先生の教えは絶対に忘れないで常に意識できるようにしたいです。



小論文講演を通して、基本的な小論文のきまりを大切にし、模範解答に近づけるのではなく、自分の考えを大切にしながら、より広く、深く考えることができるように頑張りたいです。そしてそのための日頃の努力は怠らないようにしたいです。本日は本当にありがとうございました。

